

金沢八景版画 歌川広重 本名 安藤広重

江戸時代寛政の生まれ 歌川派の浮世絵師 東海道五十三次 木曾街道六十九次 近江八景 江戸名所絵などの、多くの作品をにのこした。



金沢八景 洲崎の晴嵐 すさきのせいらん

洲崎一帯の海岸で、塩田があった処、晴れの日、風が強く吹いている状態を描いている



金沢八景 野島の夕照 のじまのせきしょう

野島一帯の漁村風景、この漁村の夕暮れは美しく、山頂からは 房総が望まれた。



金沢八景 内川の暮雪 うちかわのぼせつ

侍従川河畔の関東学院付近の瀬ヶ崎・内川橋一带、当時は海が近かった暮れの雪の景色を描いている。



金沢八景 平潟の落雁 ひらかたのらくがん

平潟は、野島の麓から洲崎の平潟湾一帯の地域、夕方に雁が群れて巣に戻ってゆく様子を描いている。



金沢八景 乙舳の帰帆 おっとものきはん

昔の文庫海岸は、船の艦の形に似ていたので乙舳海岸といった。漁を終えた船が港に戻ってくる様子を描いている。



金沢八景 瀬戸の秋月 せとのしゅうげつ

瀬戸橋付近から、秋月を眺めた夜景、遠くに墨絵のように平潟湾と野島を望んでいる。



金沢八景 小泉の夜雨 こずみのやう

金沢文庫駅から釜利谷の手子神社あたり一帯、当時は近くまで海があった、夜に雨が降っている様子を描いている。

